

令和三年九月一日発行 第三十一巻第九号 通巻第三六二号（毎月一回）廿九日発行
平成三年九月十八日第 三種郵便物認可

槐 かい

岡井省二創刊

令和3年9月号



浮いてこい

高橋将夫

コロナ禍の真つただ中に端居して
ウィルスを防戦大阪夏の陣
優曇筆や消えては灯る希望の灯
ウノルスの数より多し夏の星

リユウグウノツカイを招き新茶かな
底なしの沼の中でも浮いてこい
かけがへのなきこの時を昼寝して
人生を見つめ直すも梅雨のころ
父と子の距離の縮まる水鉄砲
心あたりなき白シャツの汚れかな
無害へとウイルス変異夏祓

「俳句四季」7月号巻頭三句より

日月抄

高橋将夫 推薦

肉	虚	眼	樵	雨	口	雲	百	古	遠	竹	ス	雲	ひ	稲	莊	信
食	空	裏	林	上	上	流	日	団	雷	の	テ	梯	ら	光	巖	心
ら	満	や	の	が	に	れ	紅	扇	や	皮	イ	で	ひ	り	の	と
ひ	つ	虹	日	り	盛	滴	真	な	ウ	脱	ホ	初	ら	地	寺	言
血	泰	の	斑	番	り	り	白	れ	イル	ぐ	ム	夏	と	球	の	ふ
を	山	彼	ふ	茶	上	に	き	も	ス	わ	木	の	羽	に	床	救
吸	木	方	ふ	濃	が	ま	雨	風	進	た	陰	空	化	罅	し	ひ
ふ	の	に	ふ	く	り	た	の	の	化	し	よ	へ	す	が	た	あ
高	白	笑	ふ	出	ゆ	次	降	あ	し	も	飛	と	る	入	り	り
野	き	み	ふ	る	く	の	り	た	て	変	ぶ	上	心	り	た	あ
聖	逝	て	筒	る	く	け	に	ら	ぬ	は	し	り	お	を	た	り
な	く	逝	鳥	る	出	り	け	し	た	ら	や	を	花	を	た	あ
り	風	く	鳴	る	る	り	り	く	る	ね	ぼ	を	畑	り	た	り
			く	日	し	音	り	く	る	ね	玉	る		獄	花	花
			く	日	し	音	り	く	る	ね	玉	る		獄	花	花
小	杉	今	岡	山	竹	橋	井	中	中	柴	阿	中	阪	出	三	久
藤	原	井	田	田	村	本	上	島	島	田	部	西	倉	利	木	保
博	ツ	充	田	田	村	順	静	昌	貞	靖	さ	厚	孝	葉	亨	夢
之	々	子	桃	佳	淳	子	子	子	子	子	ち	子	子	孝	亨	女

槐集

高橋将夫選

竹原 久保 夢女

アマリリスもつと不敵に大胆に
純白の棘ある薔薇でありました
信心と言ふ救ひあり仏桑花
神ほとけ今朝はふはりと大揚羽
風鈴やチリンと一つそんな午後
蠅叩き縁から落とすも蠅叩

守口 三木 亨

莊巖の寺の床した蟻地獄
大蜘蛛の負ふ原罪にたち竦む
クラインの壺に入れぬ明石蛸
金蠅が美しすぎる夜の街
頼りなき男（ひと）ほど愛し白桜忌
鬼灯は死者の織りなす宴かな
修行僧しばし人なり安居かな
透視する奥の奥まで守宮かな
稲光り地球に罅が入りをり

大阪 出利葉 孝

ひらひらと羽化する心お花畑
枚方 阪倉 孝子

嬉しさの言葉透けるソーダ水
言霊の安らいでをり桐の花
夕映えにかがよふ命夏祓
ささくれへ馬油たつぷり梅雨の月
雲梯で初夏の空へと上りをる
守口 中西 厚子

我慢する犬と気儘な猫の夏
隣家より煮魚匂ふ梅雨の入り
自転軸の傾き変はる夏至の夜
薄暑光亡き友人の来たりけり
ステイホーム木陰より飛ぶしやぼん玉
和泉 阿部さちよ

つばめの子波紋たてたるキツスかな
朝焼や光明得んと深呼吸吸
父の日や考似とならぬ掌
青蛙結束できぬ世に鳴けり